

エンパワーメント・フォーラム 2011

女性の活躍支援を

ワーキングウーマン・パワーアップ会議と日本生産性本部は3月11日、「エンパワーメント・フォーラム2011」を東京都内で開催し、女性を中心とした企業の人事担当者らが多数参加した。

冒頭、同会議顧問の牛尾治朗・日本生産性本部会長が開会あいさつし、「女性に有利な時代が始まりつつある。時代は明らかに変わりがつつあり、女性は本格的にパワーアップしなければならぬ。日本国内の供給力は国内の需要を大きく上回っており、日本企業はグローバル市場に出るをえ

ない。女性が活躍する機会は今後ますます増える」と述べた。次いで、先ごろ受賞組織が発表された「メンター・アワード2011」の表彰式が行われ、組織部門の優秀賞を受賞した全日本空輸、オークローンマーケティング、上智大学の3組織の代表者に牛尾顧問から表彰状が授与された。

全日本空輸は、入社5年目の女性の総合職・技術職・運航乗務員などを対象に、1泊2日のキャリアアップセミナーを実施しているほか、希望者にはメンター制度を9カ月間実施している。オークロー

ンマーケティングは、新卒者の定期採用をきっかけに、人材育成のあり方を見直し、新卒社員を対象とするメンター制度の導入やOJTの推進を行った。上智大学は、理工系の女性研究者を育成するため、世界各国の研究者をメ

ンターに迎えた「グローバルメンター制度」など、3段階でメンター制度を推進している。小林いずみ・多数国間投資保証機関長官（同会議代表幹事）は、「女性の活用、ここから先に進むには」をテーマに基調講演を行い、日本は、アメリカやスウェーデンと比較すると、政府の施策は必ずしも遅れてはいないが、機会均等の待遇

など「職場の慣習」面における施策が大きく遅れていることをターゲットをもとに説明した上で、「男女にかかわらず、一人一人の能力を最大限発揮させる施策やマネジメントが成果を大きく左右する。一人一人の能力を最大限に活用するマネジメントを行うことは、管理職の重要な仕事のひとつだ」と指摘した。同会議では、女性の活躍推進に向け、①経営者・管理職の意識改革と職場の風土改革の推進、②メンターによるサポートの促進、③女性及び女性の活躍を応援する人々によるネットワークの形成、④女性の能力を生かせる社会の実現を重点目標として、活動を展開している。



開会あいさつを行う牛尾治朗・同会議顧問

エンパワーメント・フォーラム 2011
～第3回「メンター・アワード2011」表彰式～